



# 図書情報センターだより

長崎県立大学佐世保校附属図書館

〒858-8580 佐世保市川下町123  
TEL 0956-47-2191(代表) <http://sun.ac.jp/lib>

2008.8 No. 10



## 新県立大学の 開学にあたって

池田高良

(学長)

新しい長崎県立大学は、旧長崎県立大学41年の歴史と県立長崎シーボルト大学9年の歴史並びに夫々の前身校の歴史を引き継いで開学いたしました。今日の大学開学が前身校の同窓生の方々の母校愛と進取の精神に支えられて歴史が引き継がれたことを想い、関係各位に対し、心よりの敬意と感謝の意を表します。

さて、大学統合の目的・目標は教育・研究の質の向上と国際通用性の確保並びに地域貢献への積極的参画であります。新大学はこの目標へ向かって着実に進歩・進化していかなければなりません。

世界の大学、日本の大学、そして長崎県立大学の現状からみた改革あるいは変革の必要性については、4月1日に学長所信として文書でお示したところです。わが国では、少子高齢化とともに大学の大衆化が進み、一方では子どもの学力の低下が懸念されています。大学に関しては、学力と人間力の総和としての、いわゆる学士力の向上が求められています。学士力の向上には教育力の向上が不可欠であることは言うまでもありません。また教

---

育力を高めるには教員の教育力、研究力を向上させること、及びそれによって卒業生の学士力を向上させることが求められているのであります。

ところで、大学教育のユニバーサル化は先進国の間だけに限らず、発展途上国から世界中の国へ拡がりつつあります。そして大学教育の国際連携や学士の質の国際共通性の検討も進められています。

新大学の目標の一つである教育・研究の質の向上と国際通用性についてはわが国の全ての大学に求められている最も重要な改革課題でもあります。

さて、もう一つの大学統合の目標は、地域貢献への積極的参画であります。地域に支えられている大学として地域の諸事業への参加は当然のことですが、地域力の強化を支援するために大学は政策の施策づくりからその成果の評価に至るまでの過程に積極的に参画して行くことが重要であろうと考えております。新しい大学の総合力でもって地域のニーズに応え、地域の活性化や新しい力の創造に知恵とエネルギーを提供できるよう努力してまいります。

大学は今、生き残りから進歩へ、進歩から進化へ発展して行こうとしております。大学が進化するためには、新しい特色を創り出す必要があります。本学の特色を創り出すために今、着手しているプロジェクトは地域連携に関する課題で、この中には離島のまちづくりや健康づくりに関する課題と産学官連携に関わる課題があります。また、国際交流とくに中国、韓国など東アジアとの教育・研究交流の中にも特色を創り出したいと考えております。さらに、教育研究全般に亘る質の向上を図るとともに、大学に育ちつつある顕著な業績を特色に育て、さらに伝統にまで発展させるよう支援して行きたいと考えています。

長崎県立大学に学ぶ若者たちには、自らの

志と夢を可能性のままでは終わらせないという意気でもって追いつけて行くよう切に望んでいます。大学は若者たちの期待に応えます。とくに若者には地域と国際社会での生活感覚と教養を身につけるよう育てたいと考えています。そして、若者が地域でも世界のどこでも活躍できるまでに成長するよう期待しています。

新しい長崎県立大学は新たな発展を求めて変わっていきます。変わる努力を日々続けてまいります。

県民の皆様にはどうぞ長崎県立大学の変わる姿を見つめていて下さい。そして、折にふれご指導とご鞭撻を賜りたいと思います。

新しい長崎県立大学の開学に当たり県民の要望と世界の人々の期待に応える大学へと発展するよう最大限の努力を払い続けます。



# 長崎県立大学 学歌

## 「天翔る者」

作詞：市川 森一  
作曲：大島ミチル

一 夢を追う者よ 真理の海の青  
果てしなき 船路に挑む  
勇気は 誰が為か  
嵐吹く夜も 逆巻く波の背も  
越え行きて 進むわれらの  
命の輝きよ

限りある 人の世の  
希望の 港求め  
純白の 帆を上げて  
新たな 旅の始まりに

二 <sup>あまかけ</sup>天翔る者よ 理想の空の青  
美しく 流れる雲の  
行く果ては 何処か  
愛を知る道も 心の<sup>まなびや</sup>学舎も  
若き日の 涙は秘めて  
明日の<sup>あした</sup>風になろう

手に手とり 信じ合い  
平和の鐘を鳴らす  
高らかに 誇らしく  
歌おう 旅の始まりに

～間奏～

いつまでも どこまでも  
永遠の<sup>えいえん</sup>誓い立て  
共に行く あの丘へ  
長崎 県立大学

めをおうものよしんりのうみのあおはて  
しなきふなじにいどむゆうきはたがためかあ  
らしふくよるもさかまくなみのせもこえ  
ゆくいてすすむわれらのいのちのかがやきよ  
かぎりあるひとのよのきぼうのみなともとめじゅん  
ぼくのほをあげてあらたなたびの  
はじまりにあ

# 長崎県立大学学歌 「天翔けるもの」に 寄せる想い

市川 森 一

今日、朝東京を発って来るときは雷雨で瀧のような中をやってきましたら、こちらは梅雨明けの本当に爽やかな夏の日に降り立つことができました。故郷に帰ってきたなあ、と。毎回そうなんですけれども、長崎から東京に帰りつくときよりも東京から長崎に降り立ったときの方が気持ち的にはなにかホッといたします。やっぱり生まれ故郷なんですね。

今日は長崎県立大学、佐世保にある県立大学とシーボルト大学が合併して長崎県立大学という大学が新たに発足をいたしました。新たな学長、そして新たな校歌。大学は校歌と言わずに学歌と言うそうですが、学歌を作りなさいというところから始まりまして、大島ミチルさんと一緒に学歌をつくることになりました。

なにか呼びかけるような歌をつくりたい、と思いました。そしてなにかこう、若い学生たちを励ますような、応援するような歌、そして大学の学生たちもまた、外の人達に向かって呼びかけるような歌、なんかそういう歌をつくりたいなあ、という思いを作曲家の大島ミチルさんと何度か話し合いました。

普通、校歌とか学歌といいますと、どうしてもその地域の山とか海とかを讃えて、自分の学校にはこんな素晴らしい恩師がいる、というような事であったり、そこにイチヨウの木でもあればそれを愛でるというような内向きの歌がやっぱり伝統的に多い、それはやめましょうという話をしました。もう今、自分の大学を自画自賛してもしようがない。というよりも、これから新しくできる大学、いわばそこには伝統も校風もないところで、新し

い大学が今後21世紀どういう風にあるべきか、ということを書いてあげよう、そういうスピリッツを込めましょう、という話し合いをいたしました。

理屈ではそういう話いくらでもできるんですが、いざ校歌・学歌をつくるとなるとちょっと私も片意地張って、そうは言いつつ古臭い歌になってしまうんですよ。七五調のね。先に詩があるとどうしてもそういう感じになるな、と思って大島ミチルさんに曲を先に作ってくれませんか、とお願いしました。曲先（きょくせん）というやつなんですけれども。歌というのは先に詩があつてそれに曲を当てはめると、先に曲があつてそれに詩をはめ込むのと両方の作り方があつて、大島さんに先に曲を作ってもらった方が我々が作ろうとしている世界に入りやすいなあ、と思ったんですね。校歌で曲先というのはまずありません。校歌・学歌の場合にはどうしても先に堂々たる詩があつてそれに曲がつくということなんです、大島さんもよく理解をしてくれて先に曲を作ってくれました。

その曲はやっぱりかなり型破りな曲奏でございました。普通、校歌というと4番目位まであるんです。短いフレーズのね。皆様方のお手元にお配りしました詩がそうなんです、長崎県立大学学歌「天翔けるもの」、ご覧いただければわかるとおり詩が2番しかありません。それにサビがついている。これは普通のいわば校歌・学歌というよりポップスの作り方、なんとなく曲も1曲が長い。そういう形の曲に詩をつけることになりました。

僕がつくった詩というのは先に申しましたとおり、何かこう大学側が発信していく、大学のほうから外に向かって呼びかけていく、もう内側のいろんなものを讃えあう世界からは脱却して、そして長崎らしい海と太陽と、そしてやっぱり平和と。平和を歌う歌詞というのは意外と校歌にはないです。ただ、長崎の場合には平和というフレーズはどうしても

入れたほうがいい、と思いました。今度の新しい長崎県立大学の憲章というようなものの中にも、「私たちは永久の平和を希求する」という文言がありました。その大学の精神に則るといような意味でも、平和という言葉がどうしても必要だろうと思って入れました。まあそのあたりが一つの特徴だと思います。  
(7月7日(月)長崎県立大学開学記念トーク&コンサートにおける講話「人生はドラマ」より)

## 図書館名称および 「図書情報センターだより」 名称変更のお知らせ

山田 千香子

(佐世保校附属図書館長)

平成20年4月に(新)長崎県立大学が開学いたしました。開学に際し本学図書館の正式名称が「長崎県立大学図書情報センター」から「長崎県立大学佐世保校附属図書館」へ改称となりました。これまで親しまれてきた「図書情報センター」の名称は、平成8年に現在の図書館の建物が竣工された時からの名称でした。情報化時代における図書館の役割を象徴させ、本学の未来に向けた新たな取り組み姿勢を感じさせる名称であったと思います。この度の名称変更は、統合合併した大学附属図書館として図書館名称に統一感を持たせること、新たに三つの研究センター(国際交流・地域連携・教育開発センター)が発足したことにより、それらセンター名称と差別化する必要性が生じてきたこと等、諸般の事情によるものです。「図書情報センター」として12年間の歳月が流れ名称も確実に定着してきたところですが、本年から装い新たに「長崎県立大学佐世保校附属図書館」としてスタートすることとなりました。大学における学術教育研究基盤として、また生涯学習支援や地域貢献の拠点として、スタッフ一同、さらなる

研鑽努力に励みたいと考えております。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

なお上記の図書館名称の改称に伴って本冊子「図書情報センターだより」の名称変更についても、検討が加えられているところです。その検討案の内容は、①通称としてこのままの名称を残していく、②新たな図書館名を冠したものにする、③周りの状況の変化に影響を受けない独自の名称を考える、等があげられています。本年度の発行についてはこれまでの名称を使用し、新たな名称の使用は次年度の発行からと予定しております。

最後に、佐世保校附属図書館の最近の取り組みである「日曜日開館」と「開館延長」について紹介させていただきます。これまで、学生から図書館利用への強い要望として、①日曜日の開館、②開館延長(夜11時)が寄せられていました。その背景には公務員希望者の増加傾向や、日常の勉強、就職試験の勉強のために長時間静かに勉強できる場所の確保が求められていたことがあります。実施には予算措置も伴うことや、どれくらいの学生利用があるのか把握できないこともあり、慎重に検討してまいりました。まず試行として開館しその利用者状況を見ながら開館継続について検討していくことを前提におき、6月からの開館に踏み切ったところです。日曜日開館は学生間の情報としてまだ浸透していない段階ですが、毎回予想以上の利用者数があるようです。図書館は利用者自身が積極的に参加し活用する施設であり、図書館は利用者によって「図書館」たりえると考えます。利用者のニーズから離れたところでは存続し得ないものであるといえます。利用者の意識の高さが図書館のあり方を変えていくことは確かでしょう。できるだけ多くの方々の図書館活用を期待しながら、今後とも利用者のニーズ把握に努め、図書館サービスに活かしていきたいと存じます。

## 第2回 選書ツアー

長崎県立大学佐世保校附属図書館では、学生自身が直接書店に赴いて図書館に納める書籍を選ぶ機会を設けています。選書ツアーと名づけられたこの催しは、今年も6月27日（金）に開催され、参加者の募集に応じた学生12名と図書館の職員2名、それに教員2名が佐世保駅に集合して鉄道福岡へ向かいました。

会場となったのは昨年と同様、福岡の紀伊国屋書店でした。一人当たりの予算は今年は5万円。学生は2人1組の6チームに分かれてポータブルリーダーの使い方の説明を受けた後、およそ3時間をかけてじっくり選書を行いました。



### 選書ツアーに参加して

#### 自分の直感と使命感を信じて

中村 こずえ  
(地域政策学科4年)

今回、この選書ツアーに参加した感想は、本当に有意義なものであったということである。事前説明会の際に、1人あたり選書できる上限額が5万円という事を聞いてとても驚いたと同時に嬉しかった。それは、以下のような理由があったからだ。

普段大学の図書館を利用している一人として、私はこの大学の図書館に所蔵され閲覧できる図書のなかに大学生がよく手に取るよう

な本がいかに少ないかを常々感じていた。図書館を利用する学生が多いとはいっても、半数近くはDVD鑑賞や新聞閲覧のために訪れているのではないかと思われる。一人でも多くの学生が興味を持つような本を入れてみたい！このように思ったのが、この選書ツアーに参加したきっかけである。

こうした思いを持って書店でいざ選書を始めてみると、最初は一体何を選んでいいのか、選択肢の多さに躊躇してしまった。しかし、自分の直感と勝手な使命感を信じて興味を持った本をどんどん選書していった。色とりどりの写真集を始め、デザインの教科書や、音楽の本、ドキュメンタリー作家のベストセラー小説や、アイドル本に至るまで、さまざまな角度から幅広い図書を選書できたと思う。

本との出会いは人様々で、人が自然と手に取る本も十人十色である。私自身、本との出会いから生まれた思考や感情は数知らずあり、そこから出会えた縁もあれば、いまだ理解できない本に苦悩することもある。私はこのような本との出会いが決して特別なものではなく、日々通う大学生活の図書館の中でできることと思っている。だから今回、この選書ツアーに参加できたことは、私自身にとってとても有意義なことであったと思う。

長崎県立大学の学生にとって、この選書ツアーで選ばれた図書との出会いが何かのきっかけになれば光栄だと思います。最後になりましたが、この企画を用意して下さいました図書館情報センターのスタッフの方を始め、引率の先生方に感謝します。本当にありがとうございました。

#### 本の魅力と読書の大切さ

板垣 明香  
(流通・経営学科4年)

予算5万円、制限時間は約3時間。この2つの条件の下で、図書館に配架する書籍を実際

に自らの目で見、触り、自由に選択するという貴重な体験をすることができました。そのようなわけで、私は今後より多くの人に選書ツアーに参加して頂きたいと思いました。普段は5万円分もの書籍を購入する機会などそうそう無いと思うので、自分の興味のある本をもっと図書館で充実させて欲しいと感じている方には、特にお奨めします。私は今回、初めてこの選書ツアーに参加しましたが、書店のほぼ全てのコーナーの本を手当たり次第に漁り、専門書から小説、洋書等、自分が読みたい本を思う存分選び、なおまた普段は読まない分野の本にも興味を抱く事が出来たので、非常に有意義な時間を過ごす事が出来たと思います。

選書ツアーに参加した事で私は従来以上に読書の大切さを感じることができました。「読まず嫌い」の学生さんにはぜひこれに参加する事で本の魅力を確認し、本というものをより身近に感じてもらえれば、と思います。余談ですが、いきなり分厚い本から始めるのではなく、新聞を目に通す事から活字に対する抵抗感を払拭するのも良いかも知れません。大学時代に多くの活字に触れ、豊かな想像力や読解力を養っておきたいものです。

## 気軽に本を選んでみよう

本山 麻貴穂  
(地域政策学科4年)

今回初めて選書ツアーに参加しました。会場はとても大きな書店で、佐世保にはない程の大きな書店に行くことができる、というだけでもわくわくしていました。

選書については、私はあまり深く考えずに、自分が面白そうだと思った本を積極的に選んでいきました。特に自分が興味を持っていた地方政治についての本はあまり値段を気にせず選んでいました。

このように自分の好みで本を選ぶことは、



選書ツアーの趣旨からすると多少離れたものだったかも知れませんが、でも自分なりの価値観で選んだ本は、他の人から見ればまた違った世界に見えるだろうと思い、あまり気にかけることなく本を選んでいきました。

様々な人が様々な価値観から選んだ本が図書館に所蔵されるということは、図書館が持つ知識の世界を拡げることにつながるのではないかと思います。そのような意味で、この選書ツアーでは「みんなが読むような本をきちんと選ばなくては」といった堅苦しい気持ちを持つ必要はないのではないだろうと思いました。もっと気軽に、自分が面白いと思う本をみんなにも読んでもらいたい。このような気持ちで参加することで十分だと感じました。学生時代に視野を広げる良い機会の一つとして、今後、多くの人に選書ツアーに参加してもらいたいと思いました。

## 選書ツアーで 決意を新たにしました

山口 孝尚  
(流通経営学科3年)

選書ツアーでは3時間という十分な時間を本に囲まれて、5万円という十分な予算で本を選ぶことができます。「予算を気にせずに本が選べる！」という贅沢さも未体験のものでしたが、本屋の店内を丸々3時間巡回するという日頃ありえない状況の中で様々な発見

をすることができました。

選書ツアーで特に感じたことは、「もっと幅広く読書をしなければ!」ということと、「普段の読書量が少なすぎる」ということの二点です。自覚していたことではありましたが、改めてそう思いました。今回はゆっくりと時間をかけて店内を回ること、普段だったら行かない所までしっかりと見て回ることができ、そうすることで自分の読書の幅が今までいかに狭かったかに気づくことができました。そして、たくさんの本を選ぶ中で、「今日選んだ本のうち、いったい何冊を読むことができるのだろう」と考えると、自分の読書量に情けなさを感じ、「もっと本を読まなければ」と決意することができました。

自分が今までどんな本に触れてきて、そしてこれからどんな本に、どれだけ関わっていくのか。このようなことを考える機会はそれほど多くないかと思えます。選書ツアーはただ単に好きな本を選べただけでなく、そのようなことを考える良い機会となりました。

## 図書館が身近に感じられる 選書の快感

竹田 崇弘  
(地域政策学科2年)

図書館の本を選書するという事は、日頃書店に本を買いに行くことと少し違った感じがしました。普段はあまり手にすることのない本なども手にとって見たり、選書ツアーは自分の視野を広げるきっかけにもなると思えます。選書が行なわれた書店は、地元の本屋にはない専門分野の本がたくさんそろっており、これらの本を実際に見ることができたことは、とても良いことだったと思えます。

時間はあっという間に過ぎてしまいました。同じところを何度も往復することもありました。予算が5万円という制限はありましたが、あまり気にすることなく本を選ぶことができ



たのが良かったと思います。本の内容にばらばらと目を通して、よいと思ったらリストに入れる。躊躇することなく選べたことがとても快感でした。

今回の選書ツアーは非常に良い経験になりました。一方で、開催日が講義のある金曜日だったために参加できなかった人には申し訳ないなという気持ちになりました。本の見方が変わり、図書館の利用が身近に感じられるイベントだったと思います。また機会があれば参加したいという気持ちになりましたし、今回参加できなかった人にも機会があればと思います。

## 選んだ本との再会が 楽しみです

布施 沙和  
(流通経営学科3年)

どんな本にしようかな?少しは考えていったつもりでいましたが、いざ書店に入ってみると読みたい本がどんどんでてきてしまい、その広さと数の多さ、豊富さに圧倒されてしまいました。5万円分もの本を選んだことはなかったので、時間が足りるか不安でしたが、実際に選び始めるとあっという間に終わってしまった気がします。

学生としては失格ですが、普段は素通りしてしまうことが多い専門書や経済書のコーナーをゆっくり見て回り、多くの本に触れるこ



ことができました。2人1組で回ったことで、お互いに相談しあいながら、よりよさそうな本を楽しく探すことができました。また、自分以外の人はどんな本が読みたいのだろうということを考えながら選んでいるうちに、これまで見落としてしまっていた分野にも目をむけることができ、興味が持てる良いきっかけになったと思います。

たくさんの人に楽しんでもらえそうな本、役に立ちそうな本を私なりにですが選ぶことができましたのではないかと思います。その本に、また図書館で出会うことができる日がとても楽しみです。

## 5万円分の本を一度に買う

山口 悠  
(経済学科3年)

今回、私が選書ツアーに参加したきっかけは、友人からの誘いでした。普段、図書館を利用することはあまりなかったのですが、自分の読みたい本を選ぶことができるということだったので、参加を決めました。

選書するに当たっては、一人5万円という予算設定があり、予想以上に高い金額に驚きました。選書の時間が3時間ということもあり、3時間のうちに5万円分の本を選ぶことができるのだろうかという不安も少しありましたが、楽しみでもありました。

実際選書ツアーが始まってみますと魅力的な本がたくさんあり、目を引いたものから選んでいくとあっという間に時間が過ぎていきました。それでも広い店内をくまなく歩き回ったので、選書終了時には本当に疲れてしまいました。本を選びながら、普段5万円分の本を一度に買うなどということはないので自分は今とても贅沢なことをやらせてもらっているのだなと感じました。

本を選ぶときは二人一組で行動していました。互いに興味のある分野が違っていたため

に、いろいろと移動することになったのですが、ほかの人がどのような本に興味を持ち、どのようなことに関心を抱いているのかを知ることができておもしろく思いました。また、自分の視野が広がったようにも感じました。今回は選書ツアーに参加して本当に良い経験ができました。

## ちょっとした旅行気分の 楽しい体験

内田 啓 輪  
(流通・経営学科3年)

私がこの選書ツアーの企画を知ったのは、ゼミの先生に勧めていただいたのがきっかけでした。

ゼミの方で卒業論文のテーマ決めをしていた際に、私はSONYに関係したアルバイトをしていたのでSONYに関係した論文を書こうと思い、図書館で資料を探して何冊ものSONYに関係した本を見つけました。そこでそれらの本を借りて、自分の所有している本とともに先生のもとに相談に行きました。実のところ、ほとんど自分の考えを煮詰めずに先生との話し合いに臨んだのですが、そこで話し合いの過程である程度自分の書きたい内容のヴィジョンが浮かんできました。そこで改めて自分の用意した資料を見てみると、新しいものでも刊行されて四年以上が経過しているものばかりでした。そこで先生に勧められたのが博多で行う選書ツアーでした。

選書ツアーの参加者のなかには数名の同じゼミのメンバーや友人がいました。もちろん主たる目的は最新のSONYに関係する資料の探索ではあるのですが、ちょっとした旅行気分でも自分の興味を持っているジャンルや、普段の勉強に役立つような本が選べ、大変有意義なものになりました。

## 多くの学生の参加を望みます

西 森 新 菜

(流通・経営学科3年)

私は今回、選書ツアーに参加してよかったと思う。参加した理由は、先生に勧められたからだが、参加してみて選書時間が3時間と多くあったので、普段は馴染みのない種類の書籍を見ることができた。

また、日頃書籍を読むことは少ないものの、自分で選んだ書籍は読んでみようと思ったし、今回のツアーをきっかけとしてもっと書籍を読んでみようと思うことができた。

予算が多いので、自分に興味のある書籍以外にも、友人が読んでみたいと言っていた書籍を多く選出できたとし、会場となった書店で選ぶ時間もたくさんあり、充実したツアーだった。

今回は平日だったためか、参加する学生は少なかったが、少しでも興味のある学生は、今後の選書ツアーに参加してほしい。参加することによって書籍に興味が出てくることもあるし、図書館にないが自分では手の出ない書籍なども選書できる。なにより自分の読みたい書籍が選書できるので楽しく思う。

## 必要とする本を自ら選書する

劉 燦

(大学院)

中国の留学生として選書ツアー活動に参加できて、とても嬉しく思いました。

以下、選書ツアーについて感想を述べます。

予定通り、6月27日の正午、私たちは、福岡の紀伊国屋書店に到達しました。店内にはいろいろな本がありました。経済、日本文化、学習参考書、海外文学などなど。このように、本の種類が非常に豊富で扱っている分野も幅広い書店を見学することができたのは非常に素晴らしいことでした。

選書の仕方について、具体的に説明がなされた後、私は直ちに、これから専門的に研究しようとしている流通に関する書籍の売場へ直行しました。そこでは、修士論文の作成に役立つと思われる中国、日本ならびにアジアの流通に関する本を探しました。与えられた時間は、12時45分から15時30分までの約3時間でした。その間に、修士論文の作成に実際に役立つような何冊もの本(約5万円分)を選ぶことができました。この選定の過程は本当に楽しかったです。

必要とする本を自ら選書するということをして日本の書店で初めて経験できたこのツアーは、私にとってとても有意義でした。このような機会を与えていただいたことに深く感謝いたします。

## 視野が広がる貴重な体験

陳 巧 妙

(大学院)

私は中国の国立華僑大学からの交換留学生として、この度、図書館主催の選書ツアーに参加しました。選書時間は3時間と制限されていなかったので、効率的に本を選ばなければならない。そう思ったので、出発前にインターネットで自分が読みたい本や、他の人に読んでもらいたい本をあらかじめ調べ、本の「ISBN番号」をメモしておきました。そうしておいたので、書店では検索端末を利用し



て本の在庫状況と置き場がすぐわかりました。

留学生なので、まず日本の文化や歴史に関する分野に興味があり、これらの分野の本を何冊か選書しました。それに加えて中国語と日本語を対照している本も選びました。留学生がこれらの本を読めば、日本の歴史や文化を理解することができるだけでなく、日本語の勉強にもなると思います。また、日本の学生さんに中国最新の状況を紹介したいと思い、中国の文化や経済に関する本も捜し出して選書しました。これからの中日交流に少しでも役に立つかと思えます。

選書しているうちに、自分の視野も広がっていくことを実感しました。今回の選書ツアーはとても楽しく、非常に貴重な体験になりました。もし機会があれば、また参加させていただきたいと思えます。本が好きな方は今度是非参加してみてください。

## 「学生への配慮」としての 選書ツアー

呉 柳 峰  
(大学院)

学校なら、図書館があるはずだと思う。図書館とは、いろいろな書籍が並んでいて、学生たちが自由に調べて利用することができる所である。だが、今までの図書館は学生のためのもとは言えないと思う。

今まで図書館に置かれてきた書籍は、社会、それに先生が学生に勧める書籍を中心としてきた。この種の書籍が学生たちの知識構成に強く役立つことは、はっきりわかっているのでありがたいという気持ちも持っている。でも、このような書籍だけがある図書館は、もういいという気持ちがある。

確かに、授業では良い書籍を読む必要があると思うけれども、授業に関連する以外の分野の本は不足かなと思う。図書館には、学生たち自身が、心の底から本気に読みたいと思



う本も置いたほうがいいと考える。このような図書館が学生への配慮が深い図書館である。この両方を満たしている図書館が完璧な図書館だと思う。

このような考えを持っているので、今回大学の選書ツアーという行事を知り、すぐに申し込んだ。参加できるとの通知をもらってすごく嬉しかった。自分が読みたい本を選べるとともに、他の学生にも紹介することもできるからだ。

今回のツアーは、6月26日に開催された。朝、皆で佐世保駅に集合してJRで福岡へと向かい、3時間ぐらいかけて紀伊国屋書店で選書を行なった。一人当たりの予算は5万円。学生たちは二人一組でグループになって、相談しながら好きな本を選んだ。本の海に耽るのであるから、思わず3時間が過ぎてしまった。ほんとうに嬉しかった。

今後とも選書ツアーを続けて欲しい。また今度参加したい。

## 新任職員のあいさつ



久保沙織

今年度より附属図書館へ配属となりました。利用者の皆様が図書館を明るく利用しやすい場所だと感じてくださるよう、私自身も楽しみながら仕事をしていきたいと思っております。司書としてはまだまだ未熟者ですが、よろしくお願ひします。



永尾仁美

今年度より図書館で勤務しております。本好きで学生の頃より学校図書館だけでなく、公立図書館もよく利用してきました。利用者歴は長いのですが職員としては経験が浅く、何かとご迷惑をお掛けするかと思いますが、一日も早く業務に慣れ利用者の方に満足していただけるよう努力致します。どうぞ宜しくお願いします。

## 附属図書館からのInformation



### 講演会が開催されました

7月16日に地元在住「日本の石橋を守る会」の末永暢雄氏をお迎えして「ふるさとの石橋をゆく」と題し、講演会を開催しました。各地の石橋の映像を用いての講演で学生と一般合わせて約100名の来場がありました。図書館1階インフォメーション横で石橋関連の展示を行っております。是非ご覧下さい。

◆附属図書館HPアドレス <http://sun.ac.jp/lib>

- 当館は本学学生以外の方でも県内にお住まいの15歳以上の方は利用できます。
- 開館時間／平 日：午前8時30分～午後10時まで（学生の休業期間中は午前9時～午後5時まで）  
土曜日：午前9時～午後5時まで  
休館日：日曜日・祝祭日・開学記念日（6/4）

### 【蔵書検索についてのご注意】

長崎県立大学蔵書検索システムでは、佐世保校・シーボルト校両校の資料が検索できます。配架場所をご確認ください。(佐)から始まるものは佐世保校、(シ)から始まるものはシーボルト校にあります。

長崎県立大学 蔵書検索  
University of Nagasaki OPAC

国際経済学 / 若杉隆平著  
(現代経済学入門)

巻次	配架場所	請求記号	登録番号	状態	コメント	ISBN	発行年	利用済回数
	(佐)3階 和漢書①	333.6/W26	0202105011			400026926		
	(シ)一般	333.6/W26	0101954200			400026926		

前頁 はじめから

巻次	配架場所	請求記号	登録番号
	(佐)3階 和漢書②	333.6/W26	0202105011
	(シ)一般	333.6/W26	0101954200